

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は共有し、ケアサービスの実践に繋げている。「自分らしく心安らぐ居場所になるよう」に近づけるよう努めている。	スタッフ会議で理念を復唱し実践状況を確認している。職員は利用者一人ひとりを深く理解するよう努めており、本人本位のケアに取り組んでいる。利用者は自分の好きな場所で寛いだり手作業を楽しんだりしながら穏やかに生活している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加している。また週1回地域の方がボランティアとして来てくださる。毎月の広報誌の呼びかけにペットを連れて遊びに来られたり野菜を届けて下さる。	町内会の花見や才の神、地区の敬老会やお祭りなど、たくさんの行事に参加して地域住民と交流が図られている。ボランティアが増え、手作業や草取りを利用者と一緒に行い、終了後はお茶会を楽しんでいる。また、広報誌の呼びかけで犬を連れて立ち寄ってくれる方がおり、利用者に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月事業所におられる認知症の方々の生活・認知症の理解について広報誌を通じ情報発信している。また年1回地域包括支援センターと共同で認知症の研修会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し委員の方々から頂いた意見をその後のスタッフ会議にて検討しサービス向上に取り組んでいる。	会議は定期的開催され、事業所の現状を詳しく報告し、委員から意見や要望・情報を得て運営に反映させている。委員からの情報で町内行事に参加したり、提案に基づき広報誌に「認知症の理解」と題するコラムを設け、毎号載せたりするなどサービス向上に積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者に今年第1回の運営推進会議に出席していただいた。骨折事故発生時速やかに報告・改善計画書も提出した。より良い協力関係が築けるよう取り組んでいる。	市高齢者支援センター職員が5月の運営推進会議に出席してくれるなど、今後も出席予定である。必要時はスムーズに連携出来るよう、日頃から連絡を取り合う等、より良い関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行っていないが、日常のケアの中で身体拘束に繋がらないよう取り組んでいる。言葉の拘束が課題である。	法人内に権利擁護委員会が設置され、身体拘束をしないケアについて協議検討している。委員会では現在、「言葉の拘束」に着目しており、日常のケア場面で気になる言葉を、期間を定め職員全員が使わないという取り組みを現在も継続している。期間終了後に検討会を持ち、取り組みの成果や今後の課題について話し合う予定である。	訪問調査時は「ちょっと待ってね」撲滅月間中であった。職員の言葉が利用者に与える影響は大きい。事業所が更に抑圧感のない心安らぐ居場所となるよう、今後も継続した取り組みが期待される。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会に全職員が参加し、現在各自が目標を掲げ防止に向け取り組んでいる。	法人で行う研修会に職員全員が参加し、虐待防止についての理解を深めている。また、外部研修に参加した職員の報告を受け、普段の声かけが適切かどうかの検討が行われている。トイレ確認の際の言葉等が課題として上がり、改善に向けた話し合いを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、管理者研修にて学んでいるが、制度について全職員が周知していない。今後成年後見制度を利用される方が入所されるので、学ぶ機会を取り入れていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明させて頂き、理解を頂いた上で契約している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者機関を設けていると共に広報誌の発送の際意見を頂くような声かけや意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。またご家族を行事にお誘いし意見を頂くように努めている。	事業所に苦情相談窓口を設置すると共に、意見箱や広報誌も活用して意見や要望の把握に努めている。面会や行事の際は話しやすい雰囲気づくりが工夫されている。把握した意見・要望は会議で検討して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや毎月のスタッフ会議にて話し合い反映させている。	毎月のスタッフ会議には全職員が参加し、意見交換が行われている。日々のカンファレンスや随時のケアプラン会議でも職員は積極的に発言しており、管理者は会議の結果をサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れており、半期ごとに評価を行い目標設定し向上心をもって働けるような環境となっている。臨時職員には、人事考課は行っていないが、半期ごとに話し合う機会を持ち、目標を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にてカリキュラムが確認されており、経験年数等によって研修に参加している。法人内GHで新人に向けて「認知症の理解」についての研修会を行っている。各自資格取得に向けて研修を受けやすい環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で地域密着型施設の施設長会議を毎月開催し、情報共有や研修会を通じて、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話に真摯に耳を傾けている。また今までの暮らしぶりをお聞きしたりご意見を確認し、ご本人を支援する良い関係作りになるべく努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話に真摯に耳を傾けている。またご意向を確認し、ご本人を支援する良い関係作りとなるべく努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の事前面接の段階で、ご本人やご家族の意向を確認し初期の段階よりご本人の求めておられるサービスの提供ができるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の持つておられる力や出来る力を強みにとらえて、日々の暮らしの中で職員と共に暮らしを支えて頂けるような支援をしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員とご家族が一緒に、ご本人を支えて行く為に、常にご家族に報告したり相談させて頂いている。	広報誌に本人の活動写真や近況を書いた「お便り」を添えて家族に送っている。また、面会や電話の際は事業所での過ごし方を伝えながら家族の様子や要望も聞き、情報の共有に努めている。難しいケースについては、家族と相談を重ねながら本人にとって最善の方法を選択している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもご家族や知人・友人が訪ねて来て頂けるよう配慮している。またご家族の協力で一緒に外出できるよう支援している。	馴染みの関係が継続できるよう、墓参りや買い物などの外出支援を行ったり、本人の様子を見ながら家族に面会をお願いをしたりしている。また、家族や友人・知人が気軽に訪ねてくれるような環境整備に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いの居室を行き来され話ができる環境を整えている。また一緒に外出したり、リビングでの会話が自然と出来るように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退去された後は、他の施設に入所された場合は、面会に訪れる場合はあるが、支援はしていない。退去にあたりスムーズに移行できるように支援はしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりのニーズを把握するように努めている。言葉で表現できない方は、普段の生活の中から表現・行動等で探りながら職員間で検討し支援している。	利用者との日々の会話や関わりの中から思いや意向の把握に努めている。たとえば「家族に会いたい」等といった気持ちをストレートに言えないご利用者に対しては、行動や表情などからその真意を推し量ったり、それとなく確認するようにしている。把握した情報は記録や申し送りで職員間で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしや生きてこられた背景を職員が把握する事は重要と考え、入所前にご家族やご本人からの情報を大事にしている。また入所された後もあらゆる機会に捉える事が出来るように努めている。	入居前に自宅への訪問を行い、生活歴や習慣など本人の把握に努め、これまでの暮らしが継続できるよう支援している。入居後もその有する力を発揮できるよう働きかけており、趣味で行っていた読書や手芸を楽しみながら続けている利用者もおられる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや日々の職員間で共有している。(介護日誌等)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と居室担当者が中心となり、ご本人の意向や状態を踏まえて、よりご本人らしく生活して頂けるような介護計画書を作成している。また毎月担当者がモニタリングを行い、計画的に総括している。	利用者・家族の意向を踏まえ、計画作成担当者が居室担当職員と相談しながら作成している。介護計画に基づいた実施状況は日々記録に残している。また、ミーティングで他の職員の気づきを拾いあげ、毎月のモニタリングと3か月毎に評価・見直しが行われている。サービス担当者会議には利用者や家族も参加され、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアの実践・結果気づきを記録し、職員間で共有している。また毎月居室担当者がモニタリングを行い定期的に計画作成担当者が総括を行い、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	限られた職員の中で、ご本人・ご家族のニーズを捉えなるべく柔軟な支援をなるべく取り組んでいる。少しずつではあるが、ボランティアの力を活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	少しずつではあるが、地域の方や小学校との交流が継続されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の意向を確認し受診に繋げている。協力病院へは、定期的に受診している。	利用者・家族の希望するかかりつけ医となっているが、入居後は利便性などから事業所の協力医に移行される方が多い。受診の際は「受診連絡票」を活用して、関係者間で情報の共有が図られている。また、緊急時は家族と連絡を取り合い、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームでは、常勤の看護師はいないので、グループ内の看護師に適宜相談し指示を受けている。また協力病院やかかりつけ医の指示を仰ぎ支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の関係者と情報を共有し、退院後の協力病院に繋げるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の支援は行っていない。代表者が認知が進行されて重度化になった場合は、対応できる施設への移行を考えるようにとの考えの為、入居された当初よりその旨をご家族にお伝えしている。施設移行の際は、十分な話し合いを行っている。	ホームでは終末期の対応ができないことを入居契約時に説明し同意を得ている。利用者の体調変化があった場合は、本人や家族の思いと医師の判断を踏まえながら、その人の状態に合った病院や関連施設等への移行支援をチームで取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急措置の訓練については年1回グループ内(母体)にて行っている。またノロのシュミレーションも行っている。	消防署主催の実技講習会に全職員が参加し、心肺蘇生法・AEDの使い方・異物除去の仕方等について学んでいる。また、今年度は法人本部の委員会指導の下、毎月のミーティングの中で感染症発生を想定したシュミレーションを繰り返し行っており、職員の実践力向上に向け取り組んでいる。緊急時や事故発生時のマニュアルも整備されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行なっている。その内1回は、町内の方から参加して頂き、地域との協力体制は築いている。	災害時のマニュアルを整備し、年2回避難訓練を行っている。運営推進会議でも災害時の対応について話し合っており、町内会長からの提案で初めて夜間に訓練を実施し、具体的な避難方法や誘導の確認が行われた。また、有事の際には地域住民や近隣の関連施設等の協力が得られる体制が構築されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人として尊重した言葉かけや対応を行っている。	職員は一人ひとりに寄り添い、利用者の心身の状況やその場の状況に合わせた声かけや声のトーンで対応している。利用者一人ひとりの呼称についても、慣れ合いの中で尊厳や誇りを損ねてないか勉強会の中で確認し合い、失礼のない対応を心がけている。職員の意見から、玄関入ってすぐのトイレには扉の前にカーテンが取り付けられ、プライバシーへの配慮がなされた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけをしているし、心がけている。なかなか思いを表現できない人に対し、あらゆる場面で支援出来ているかは、課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりの人として尊重した言葉かけや対応・その人のペースに合わせた希望を支援するように努めている。9人の方一人ひとりの希望を全て支援できるかは、共同生活介護の枠の中では困難であるが、職員の意識付は出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を着ていただく、好きな髪型や髪の色等ご本人の意向を踏まえた支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各々の好みに沿った、また季節のものを取り入れたメニューにしている。一人ひとりの力に応じて職員と一緒に調理作業を行ったり後片付けも毎食後に一緒に行っている。	献立は利用者の希望を聞きながら職員が当番制で立て、食事の準備や片づけなども利用者個々のできることに応じて一緒に行っている。茶碗は本人の愛用の物を使っている。また、外食に出かけたり、毎日ではないがチラシを見ながら利用者と一緒に買い物に行くことも楽しんでおり、食事を一日の大切な活動の一つとして支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、グループ内の管理栄養士にメニューの内容を報告しチェックを受け、必要時には、改善している。その他の支援は出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行っている。介助が必要な方、見守りが必要な方一人ひとりの状態にあわせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録等で排泄パターンを把握したり利用者の行動や仕草等観察し、必要に応じて誘導している。失敗にて自尊心を傷つけないような配慮やすぐに紙パンツ等の使用に移行しないように配慮している。	排泄の間隔やタイミングを把握し、排泄のサインを見逃さないよう気をつけながら時間誘導したり、その方に合った排泄用品を使用して、トイレでの排泄を支援している。トイレの数も多く、順番を待つことなく快適に使用できる環境である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の観察を行い、食事や飲み物を工夫したり、十分な水分を摂っていただくよう配慮している。屋内・屋外での散歩や体を動かすレク等を取り入れ予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴はして頂いている。ただ時間帯については9人の共同生活であるので、一人ひとりの希望に沿った入浴となるように心がけている。	午後に入浴時間を設け利用者全員の方が毎日入浴している。同性介助を希望する利用者にはその都度調整し、入浴を拒まれる方には無理強いすることなく、言葉がけや対応の工夫をしている。また、入浴を楽しんでもらえるよう菖蒲やゆず湯などが実施されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの今までの暮らしが繋がるように、環境を整え安心して休んで頂けるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解と確認に努めているが、今後も職員全員が、全利用者の把握が出来るように努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合いを持って日々暮らして頂けるように、ご本人のできる力や持っておられる力を活かし楽しみに繋げて支援している。今の生活を楽しんで頂けるよう無理のない範囲で支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、一人ひとりの希望に添うことは難しいが、ゴミだし散歩や買い物等に出かけている。また季節を感じて頂けるような外出を取り組んでいる。更にご家族の協力をえて、個別外出を楽しんで頂いている。	地域のお祭りや敬老会、小学校の運動会等に参加し、地域の人との交流の機会となっている。日常的には食材の買い出しに出かけたり、利用者の希望に応じた買い物等、個別の外出支援も行っている。また、年間計画を立て、高田公園へのお花見、京ヶ浜への日帰り温泉、菊まつり等へ出かけて楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本部の方針で日常的にお金を持って頂いていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話や手紙は自由にして頂いている。ご本人の希望があれば、好きな時間に電話をして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心して過ごして頂けるように一般家庭に近い環境となるように配慮している。廊下には活動写真・リビングには手作りカレンダーを掲示し時間や季節がわかるように工夫している。	リビングや居室からの眺めや日当りは良く、四季折々の風景を楽しむことができる。リビングや浴室、トイレ等は家庭的な広さで安心感がある。また、随所に季節の装飾や写真、手作りカレンダーが飾られ、利用者に季節感や思い出を懐かしく感じたりしてもらえるよう工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られた狭い共有空間であるが、利用者同士が交流出来るようにソファの位置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は4畳半と狭い為、ベッドを入れていると一段と狭くなっている。入居の際には使い慣れた物持ち込んで頂くようお願いしている。居室担当者中心にご家族とも協働してご本人がより寛げる空間となるように配慮している。	居室にはベッドと洗面所が備え付けられている他、自宅からは馴染みの家具や愛用の寝具、思い出の品々が自由に持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう工夫されている。居室の掃除は利用者のできる力を大切にしながら職員は側面的に支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手狭な空間であるが、その場所がどのような意味を持った場所かがわかるように工夫している。		